

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
保健医療学部 リハビリテーション 学科理学療法 学専攻	8人	1人	8人	4人	21人	9人	18人	0人	119人	13.8人	
保健医療学部 リハビリテーション 学科作業療法 学専攻	3人	1人	1人	2人	7人	6人	6人	1人			
計	11人	2人	9人	6人	28人	15人	24人	1人	119人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤	情報処理学	15	木村 幸世	兼任
		医療情報学	15	周藤 俊治	兼任
		統計学	15	周藤 俊治	兼任
		物理学	15	三好 由美	兼任
		生物学	15	三好 由美	兼任
		医療英語	15	近藤 未奈	兼任
	人間と生活	文学	15	小林 信	兼任
		教育学	15	川村 光	兼任
		法学概論	15	松崎 秀明	兼任

		国際社会と日本	15	白井 博雄	兼任	
基礎	人間と生活	自然科学概論	15	三好 由美	兼任	
		福祉住環境論	15	曾我部 千鶴美	兼任	
		生命倫理	8	豊泉 俊大	兼任	
		コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅰ	8	春海 淳子	兼任	
	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ	8	春海 淳子	兼任		
	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅲ	8	大西 環・井口 知也・井上直哉	専任		
	医療コミュニケーション学（面接技法）	8	島 雅人	専任		
	国語表現学（レポート作成法）	15	岡崎 昌宏	兼任		
	心理学（人間関係学、教育心理学を含む）	15	鈴木 暁子	兼任		
	言語学	15	松井 理直	専任		
	英語コミュニケーション（英会話初級）	15	近藤 未奈	兼任		
	専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎ゼミナール	30	専任教員・他	専任・兼任
			チーム医療論（多職種連携の理解を含む）	15	専任教員・他	専任・兼任
障がい者スポーツ入門			15	島 雅人・相原 一貴	専任	
障がい者スポーツ指導論			15	島 雅人・相原 一貴	専任	
スポーツ医学			8	境 隆弘・他	専任・兼任	
リハビリテーション概論（地域包括ケアシステムの理解を含む）			15	井上悟・島雅人・柳千磨・石倉隆・松井理直	専任	
リハビリテーション医学			15	非常勤講師	兼任	
介護概論			8	綾部 貴子	兼任	
感染症学（感染症の基礎及び予防策を含む）			8	藤岡 重和	専任	
障害者福祉論（自立支援、就労支援を含む）			8	綾部 貴子	兼任	

		老人福祉論	8	綾部 貴子	兼任	
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	基礎解剖学	15	柴田 雅朗	兼任	
		解剖学基礎演習	15	岡智大・中村彩・文本聖現	専任	
		運動器系の解剖学	15	安延由紀子・伊禮まり子	専任	
		神経系の解剖学	15	柴田 雅朗	兼任	
		内臓系の解剖学	15	非常勤講師	兼任	
		機能解剖学（体表解剖学・触知）	15	津村宜秀・田坂厚志	専任	
		生理学Ⅰ	15	木村 晃大	専任	
		生理学Ⅱ	15	木村 晃大	専任	
		生理学Ⅲ	15	伊禮 まり子	専任	
		生理学Ⅳ	15	伊禮 まり子	専任	
		生理学実習	23	木村 晃大	専任	
		運動学総論	30	境 隆弘	専任	
		運動学各論	30	境 隆弘	専任	
		運動学基礎演習	15	津村 宜秀	専任	
		生涯人間発達学	15	藪中 良彦	専任	
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	15	春海 淳子	兼任
	病理学概論		8	藤岡 正喜	兼任	
	一般臨床医学（救急救命を含む）		15	藤岡重和・岡本文雄・福原雅之・神納光一郎・矢吹裕栄・竹原友貴・藤岡正喜・大場創介	専任・兼任	
	医療安全学		8	藤岡 重和	専任	
	疫学・公衆衛生学（予防の基礎を含む）		8	白井 文恵	兼任	
	内科学Ⅰ		15	藤岡 重和	専任	
	内科学Ⅱ		15	藤岡 重和	専任	
	整形外科Ⅰ		15	岡智大・安延由紀子・松井満政・高木啓至・中村憲正	専任・兼任	
	整形外科Ⅱ		15	安延由紀子・岡智大	専任	
	臨床神経学Ⅰ		15	岩田篤・津村宜秀	専任	
	臨床神経学Ⅱ		15	岩田 篤	専任	
				精神医学	15	高井田 輪香子

専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床運動学	15	文本 聖現	専任
		臨床薬理学	8	名徳 倫明	兼任
		臨床検査医学（画像診断・評価を含む）	8	藤岡重和・津田泰宏・和田晋一・久田洋一・掛川雅朗・石田志門	専任・兼任
		小児科学	8	早島禎幸・藪中良彦	専任・兼任
		老年医学	8	藤岡重和・大中玄彦	専任・兼任
		高次脳機能障害学Ⅰ	8	津村 宜秀	専任
		高次脳機能障害学Ⅱ	8	文本聖現・牧之瀬一博・津村宜秀・大西環・井上直哉	専任
		栄養学	8	仲村 祐江	兼任
専門	基礎理学療法学	スタディースキルⅠ	15	1年チューター	専任
		スタディースキルⅡ	15	2年チューター	専任
		理学療法概論（制度・教育・倫理）	15	藪中良彦・安延由紀子	専任
		臨床ゼミナールⅠ	15	PT 専任教員	専任
		臨床ゼミナールⅡ	15	PT 専任教員・藪中良彦・岡智大・小川真人	専任
		総合理学療法学Ⅰ	15	3年チューター	専任
		総合理学療法学Ⅱ	15	PT 専任教員・他	専任・兼任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	15	中村 彩	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	牧之瀬 一博	専任
		理学療法評価学Ⅲ（画像評価を含む）	15	藪中良彦・小川真人・津村宜秀	専任
		理学療法評価学実習	23	牧之瀬 一博	専任
		理学療法評価学演習Ⅰ	15	3年チューター	専任
		理学療法評価学演習Ⅱ（思考プロセス）	15	牧之瀬一博・岡智大・文本聖現	専任
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ	15	文本聖現・安延由紀子	専任
専門	理学療法治療学	運動療法学Ⅱ	15	岡智大・中村彩・秋山直人・土井雄貴	専任・兼任
		小児期理学療法治療学	15	藪中 良彦	専任
		呼吸器障害理学療法治療学（喀痰等の吸引を含む）	8	小川 真人	専任
		代謝障害理学療法治療学	8	小川 真人	専任

専門	理学療法治療学	循環器障害理学療法治療学	8	小川 真人	専任
		神経障害理学療法治療学Ⅰ	15	岩田篤・植田翔介・文本聖現	専任・兼任
		神経障害理学療法治療学Ⅱ	15	岩田篤・文本聖現	専任
		老年期理学療法治療学	8	田坂厚志・木上秀幸・奥野泰介・新家寿貴・池田耕二	専任・兼任
		運動器障害理学療法治療学Ⅰ	15	佐藤睦美・高木啓至・岡智大	専任・兼任
		運動器障害理学療法治療学Ⅱ	15	佐藤睦美・境隆弘	専任・兼任
		運動器障害理学療法治療学Ⅲ	8	井上悟・加藤直樹	専任・兼任
		物理療法学	15	田坂厚志・島雅人・椰千磨	専任
		物理療法学演習	15	島雅人・安延由紀子・伊禮まり子	専任
		義肢装具学	15	井上 悟	専任
		義肢装具学演習	15	井上悟・境隆弘・高木啓至・西野誠一	専任・兼任
	地域理学療法学	日常生活活動学	8	相原 一貴	専任
		日常生活活動学演習	15	相原一貴・植田翔介	専任・兼任
		地域理学療法学	8	中村彩・田中仁	専任・兼任
		生活環境論	8	相原 一貴	専任
		国際リハビリテーション	23	井口知也・寺村晃・辻郁・PT 専任教員	専任・兼任
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ（職業教育）	8	島雅人・他	専任・兼任
		理学療法管理学Ⅱ（職場管理、教育・職業倫理）	8	4年生チューター・他	専任
	理学療法研究	理学療法研究法	8	伊禮 まり子	専任
	専門	理学療法研究	理学療法演習Ⅰ（演習・調査・研究）	15	PT 専任教員
理学療法演習Ⅱ（演習・調査・研究）			15	PT 専任教員	専任
理学療法特別演習（卒業試験）			15	PT 専任教員・外部講師	専任・兼任
臨床実習		臨床見学	40時間	椰千磨・1年生チューター	専任

専門	臨床実習	見学実習Ⅰ	45 時間	榑千磨・2年生チューター	専任
		見学実習Ⅱ	45 時間	榑千磨・3年生チューター	専任
		評価実習	180 時間	3年生チューター	専任
		総合臨床実習	630 時間	4年生チューター・ PT 専任教員	専任

保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤	情報処理学	15	木村 幸世	兼任
		医療情報学	15	芦田 信之	兼任
		統計学	15	周藤 俊治	兼任
		物理学	15	三好 由美	兼任
		生物学	15	三好 由美	兼任
		医療英語	15	近藤 未奈	兼任
	人間と生活	文学	15	小林 信	兼任
		教育学	15	川村 光	兼任
		法学概論	15	松崎 秀明	兼任
		国際社会と日本	15	白井 博雄	兼任
		自然科学概論	15	三好 由美	兼任
		福祉住環境論	15	曾我部 千鶴美	兼任
		生命倫理	8	豊泉 俊大	兼任
	社会の理解	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅰ	8	春海 淳子	兼任
		コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ	8	春海 淳子	兼任
		コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅲ	8	大西環・井口知也・井上直哉	専任

基礎	社会の理解	国語表現学（レポート作成法）	15	岡崎 昌宏	兼任
		心理学（人間関係学、教育心理学を含む）	15	鈴木 暁子	兼任
		言語学	15	松井 理直	専任
		英語コミュニケーション（英会話初級）	15	近藤 未奈	兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎ゼミナール	30	専任教員・他	専任・兼任
		チーム医療論（多職種連携の理解を含む）	15	専任教員・他	専任・兼任
		障がい者スポーツ入門	15	島雅人・相原一貴	専任
		障がい者スポーツ指導論	15	島雅人・相原一貴	専任
		スポーツ医学	8	境隆弘・他	専任・兼任
		リハビリテーション概論（地域包括ケアシステムの理解を含む）	15	井上悟・島雅人・柳千磨・石倉隆・松井理直	専任
		リハビリテーション医学	15	非常勤講師	兼任
		介護概論	8	綾部 貴子	兼任
		感染症学（感染症の基礎及び予防策を含む）	8	藤岡 重和	専任
		障害者福祉論（自立支援、就労支援を含む）	8	綾部 貴子	兼任
		老人福祉論	8	綾部 貴子	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	基礎解剖学	15	永瀬 佳孝	兼任
		解剖学基礎演習	23	渡部 雄太	専任
		運動器系の解剖学	15	寺村晃・渡部雄太	専任
		神経系の解剖学	15	柴田 雅朗	兼任
		内臓系の解剖学	15	非常勤講師	兼任
		生理学Ⅰ	15	木村 晃大	専任
		生理学Ⅱ	15	木村 晃大	専任
		生理学Ⅲ	15	非常勤講師	兼任

専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	生理学Ⅳ	15	伊禮 まり子	専任
		生理学実習	23	木村 晃大	専任
		運動学総論	30	長谷川 昌士	兼任
		運動学各論	30	長谷川 昌士	兼任
		運動学基礎演習	23	山本清治・寺村 晃	専任
		生涯人間発達学	15	寺村晃・吉田文・井口知也	専任
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	臨床心理学	15	春海 淳子	兼任
		病理学概論	8	藤岡 正喜	兼任
		一般臨床医学（救急 救命を含む）	15	藤岡重和・岡本文雄・福原 雅之・神納光一郎・矢吹裕 栄・竹原友貴・藤岡正喜・ 大場創介	専任・兼任
		医療安全学	8	藤岡 重和	専任
		疫学・公衆衛生学 （予防の基礎を含 む）	8	白井 文恵	兼任
		内科学Ⅰ	15	藤岡 重和	専任
		内科学Ⅱ	15	藤岡 重和	専任
		整形外科Ⅰ	15	西田裕希・寺村晃・渡部雄 大・中村憲正・松井満政	専任・兼任
		整形外科Ⅱ	15	寺村晃・水本美保・渡部雄 太	専任・兼任
		臨床神経学Ⅰ	15	吉田文・OT 専任教員	専任・兼任
		臨床神経学Ⅱ	15	岡山友哉・OT 専任教員	専任・兼任
		精神医学	15	高井田 輪香子	兼任
		臨床運動学	15	渡部雄太・山岡信	専任・兼任
		臨床薬理学	8	名徳 倫明	兼任
		臨床検査医学（画像 診断・評価を含む）	8	藤岡重和・石田志門・津田 泰宏・和田晋一・掛川泰 朗・久田洋一	専任・兼任
		小児科学	8	早島禎幸・藪中良彦	専任・兼任
		老年医学	8	藤岡重和・大中玄彦	専任・兼任
		高次脳機能障害学Ⅰ	8	掛川 泰朗	兼任
		高次脳機能障害学Ⅱ	8	岡山友哉・OT 専任教員	兼任
		栄養学	8	仲村 祐江	兼任
	専門	基礎作業療法学	作業療法概論	8	辻 郁

専門	基礎作業療法学	基礎作業学Ⅰ	23	大類淳矢・林部美紀・松尾康宏・秋吉有梨・北田有沙・森本かえで	専任・兼任
		基礎作業学Ⅱ	30	吉田文・平河麻未・楠本涼介・井口知也	専任・兼任
		作業療法研究法	15	井口知也・渡部雄太	専任
		作業療法総合演習Ⅰ	15	OT 専任教員	専任
		作業療法総合演習Ⅱ	15	OT 専任教員	専任
		作業療法総合演習Ⅲ	15	OT 専任教員	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	15	辻郁・葉山靖明・西田裕希	兼任
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	8	辻 郁	兼任
		作業療法評価学Ⅰ	15	岡山友哉・橋元和泉・日高菜実・澤田浩基・山本清治	専任・兼任
		作業療法評価学Ⅱ (画像評価を含む)	15	山本清治・吉田文・寺村晃	専任
	作業療法治療学	身体障害治療学Ⅰ	15	岡山友哉・田中陽一	兼任
		身体障害治療学Ⅱ	15	山本清治・福岡千枝・熊野宏治	専任・兼任
		身体障害治療学Ⅲ (吸引を含む)	15	山本清治・林部美紀・松永伸志・西出義明	専任・兼任
		精神障害治療学Ⅰ	15	吉田文・大類淳矢・松田匡弘・堀内勇志・櫛田理彩	専任・兼任
		精神障害治療学Ⅱ	15	吉田文・大類淳矢・南庄一郎・櫛田理彩・芳賀大輔	専任・兼任
		発達障害治療学Ⅰ	15	寺村 晃	専任
		発達障害治療学Ⅱ	15	寺村 晃	専任
		老年期障害治療学Ⅰ	15	井口知也・森本かえで・渡部雄太・寄山泰志	専任・兼任
		老年期障害治療学Ⅱ	15	井口知也・森本かえで・渡部雄太・寄山泰志	専任・兼任
		作業療法治療学演習Ⅰ	23	山本 清治・寺村晃・OT 専任教員	専任
作業療法治療学演習Ⅱ		23	山本 清治・寺村晃・OT 専任教員	専任	
作業療法技術論Ⅰ		15	渡部雄太・森田将史・足立一	専任・兼任	
作業療法技術論Ⅱ		15	吉田文・木村佳友・水上言・黒川晶平	専任・兼任	

専門	作業療法治療学	作業療法技術論Ⅲ	15	吉田文・石橋奈美・有賀喜代子・橋本弘子	専任・兼任
		作業療法技術論Ⅳ	15	井口知也・林部美紀・松田靖史・渡部雄太	専任・兼任
		臨床ゼミナールⅠ	15	大類淳矢・吉田文	専任
		臨床ゼミナールⅡ	15	OT 専任教員	専任
		臨床ゼミナールⅢ	15	寺村 晃	専任
		臨床ゼミナールⅣ	15	山本 清治	専任
	地域作業療法学	総合作業療法学	30	OT 専任教員	専任
		地域作業療法学Ⅰ	15	辻郁・小野稿樹・多崎沙綾香・葉山靖明・田中歩	兼任
		地域作業療法学Ⅱ	15	辻郁・酒井京子・堀内勇志・寺山衣代・木戸俊介・山河正裕	兼任
		日常生活活動学	15	寺村晃・渡部雄太・山本清治	専任
		国際リハビリテーション	23	井口知也・寺村晃・辻郁・PT 専任教員	専任・兼任
	卒業研究	作業療法研究	120時間	OT 専任教員	専任
	臨床実習	臨床見学実習	45時間	OT 専任教員	専任
		臨床評価学実習Ⅰ	45時間	OT 専任教員	専任
		臨床評価学実習Ⅱ	135時間	OT 専任教員	専任
		地域作業療法実習	90時間	OT 専任教員	専任
		総合臨床実習Ⅰ	405時間	OT 専任教員	専任
		総合臨床実習Ⅱ	315時間	OT 専任教員	専任
		総合臨床実習Ⅲ	90時間	OT 専任教員	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法士の仕事の見学 (臨床見学)	1年前期	リハビリテーション概論	1年前期
		理学療法概論	1年前期
		理学療法管理学Ⅰ	1年前期
		スタディースキルⅠ	1年通年
		臨床ゼミナールⅠ	1年通年
情報収集、動作観察、検査・測定等の見学 (見学実習Ⅰ)	2年後期	スタディースキルⅠ	1年通年
		スタディースキルⅡ	2年通年
		臨床ゼミナールⅠ	1年通年
		臨床ゼミナールⅡ	2年通年
情報収集、動作観察、検査・測定等の見学 (見学実習Ⅰ)	2年後期	理学療法評価学Ⅰ	1年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		理学療法評価学実習	2年後期
		運動療法学Ⅰ	2年後期
情報収集、動作観察、検査・測定等の見学 (見学実習Ⅱ)	3年前期	スタディースキルⅠ	1年通年
		スタディースキルⅡ	2年通年
		臨床ゼミナールⅠ	1年通年
		臨床ゼミナールⅡ	2年通年
		理学療法評価学Ⅰ	1年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		理学療法評価学実習	2年後期
		日常生活活動学	3年前期
		生活環境論	3年前期
		運動療法学Ⅰ	2年後期
		運動療法学Ⅱ	3年前期
情報収集、動作観察、検査・測定等の実践 (評価実習)	3年後期	理学療法評価学Ⅰ	1年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		理学療法評価学Ⅲ	3年通期
		理学療法評価学実習	2年後期
		理学療法評価学演習Ⅰ	3年通年
		理学療法評価学演習Ⅱ	3年後期

情報収集、動作観察、検査・測定等の実践 (評価実習)	3年後期	日常生活活動学	3年前期
		日常生活活動学演習	3年後期
		生活環境論	3年前期
		運動療法学Ⅰ	2年後期
		運動療法学Ⅱ	3年前期
		総合理学療法学Ⅰ	3年通年
治療目標及び計画の立案、実施の実践 (総合臨床実習)	4年通年	理学療法評価学Ⅲ	3年通年
		理学療法評価学演習Ⅱ	3年後期
		運動療法学Ⅱ	3年前期
		運動器障害理学療法治療学Ⅰ	3年前期
		運動器障害理学療法治療学Ⅱ	3年後期
		運動器障害理学療法治療学Ⅲ	3年後期
		神経障害理学療法治療学Ⅰ	3年前期
		神経障害理学療法治療学Ⅱ	3年後期
		老年期理学療法治療学	3年前期
		呼吸器障害理学療法治療学	3年前期
		代謝障害理学療法治療学	3年後期
		小児期理学療法治療学	3年後期
		代謝障害理学療法治療学	3年後期
		循環器障害理学療法治療学	3年後期
		物理療法学	3年前期
		物理療法学演習	3年後期
		義肢装具学	3年前期
		義肢装具学演習	3年後期
		日常生活活動学	3年前期
		日常生活活動学演習	3年後期
総合理学療法学Ⅰ	3年通年		

保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
作業療法の様々な取り組みを見学，経験 (臨床見学実習)	1年後期	リハビリテーション概論	1年前期
		作業療法概論	1年前期
		基礎作業学Ⅰ	1年前期
		作業療法管理学	1年後期
		臨床ゼミナールⅠ	1年後期
情報収集、動作観察、検査・測定等の 見学，経験 (臨床評価学実習Ⅰ)	2年前期	作業療法評価学概論	1年後期
		作業療法評価学Ⅰ	2年前期
		作業療法技術論Ⅰ	2年前期
通所・訪問リハビリテーションでの 作業療法場面の見学，経験 (地域作業療法実習)	3年前期	基礎作業学Ⅱ	2年後期
		臨床ゼミナールⅡ	2年後期
		作業療法評価学Ⅱ	2年後期
		作業療法技術論Ⅱ	2年後期
		地域作業療法学Ⅰ	3年前期
		地域作業療法学Ⅱ	3年前期
		身体障害治療学Ⅰ	3年前期
		身体障害治療学Ⅱ	3年前期
		精神障害治療学Ⅰ	3年前期
		発達障害治療学Ⅰ	3年前期
		老年期障害治療学Ⅰ	3年前期
		作業療法治療学演習Ⅰ	3年前期
		臨床ゼミナールⅢ	3年前期
作業療法技術論Ⅲ	3年前期		
情報収集、動作観察、検査・測定等の実践 (臨床評価学実習Ⅱ)	3年後期	作業療法評価学Ⅱ	2年後期
		身体障害治療学Ⅰ	3年前期
		身体障害治療学Ⅱ	3年前期
		身体障害治療学Ⅲ	3年後期
		精神障害治療学Ⅰ	3年前期
		精神障害治療学Ⅱ	3年後期
		発達障害治療学Ⅰ	3年前期
		発達障害治療学Ⅱ	3年後期
老年期障害治療学Ⅰ	3年前期		

情報収集、動作観察、検査・測定等の実践 (臨床評価学実習Ⅱ)	3年後期	老年期障害治療学Ⅱ	3年後期
		作業療法治療学演習Ⅰ	3年前期
		作業療法治療学演習Ⅱ	3年後期
		日常生活活動学	3年後期
		臨床ゼミナールⅣ	3年後期
		作業療法技術論Ⅳ	3年後期
治療目標及び計画の立案、実施の実践 (総合臨床実習Ⅰ，総合臨床実習Ⅱ， 総合臨床実習Ⅲ)	4年前期	身体障害治療学Ⅰ	3年前期
		身体障害治療学Ⅱ	3年前期
		身体障害治療学Ⅲ	3年後期
		精神障害治療学Ⅰ	3年前期
		精神障害治療学Ⅱ	3年後期
		発達障害治療学Ⅰ	3年前期
	4年後期	発達障害治療学Ⅱ	3年後期
		老年期障害治療学Ⅰ	3年前期
		老年期障害治療学Ⅱ	3年後期
		作業療法治療学演習Ⅰ	3年前期
		作業療法治療学演習Ⅱ	3年後期
		日常生活活動学	3年後期
		臨床ゼミナールⅣ	3年後期
		作業療法技術論Ⅳ	3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2

	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1
--	---------------------------	---

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	①自己点検評価委員会 ②大学運営会議
委員名（委員長）	<p>①自己点検評価委員会</p> <p>事務部長：中野尚美（委員長）</p> <p>学科長：島雅人</p> <p>研究科長：松井理直</p> <p>専攻主任：井口知也（作業療法学専攻）、田坂厚志（理学療法学専攻）</p> <p>専攻科主任：大西環（言語聴覚専攻科）</p> <p>法人室課長：溝畑允康</p> <p>事務部課長：嶋崎佑一</p> <p>②大学運営会議</p> <p>学科長：島雅人（委員長）</p> <p>研究科長：松井理直</p> <p>専攻主任：井口知也（作業療法学専攻）、田坂厚志（理学療法学専攻）</p> <p>専攻科主任：大西環（言語聴覚専攻科）</p> <p>事務部長：中野尚美</p> <p>法人室課長：溝畑允康</p> <p>事務部課長：嶋崎佑一</p>
組織の開催頻度	①②一か月に一度
組織の取り組み内容	<p>① (1) 自己点検及び評価並びに外部点検及び評価の実施基準等に関する事項</p> <p>(2) 教育活動、研究活動、社会貢献・組織運営の項目の設定に関する事項</p> <p>(3) 自己点検等の実施に関する事項</p> <p>(4) 自己点検等に関する報告書の作成に関する事項</p> <p>(5) その他自己点検等に関する事項</p>

	<p>② (1) 教員の人事案に関する事項 (2) 中期計画・年度計画に関する事項 (3) 内部質保証に関する事項 (4) 教学に関する事項 (5) 入学試験に関する事項 (6) 国際交流に関する事項 (7) 学生の健康管理に関する事項 (8) 各専攻・専攻科の運営に関する事項 (9) 各委員会における全学的課題に関する事項 (10) 規則等の制定又は改廃に関する事項 (11) その他学部等の運営に関する重要事項 (12) 私立大学等改革総合支援事業に関する事項</p>
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 (URL : https://ohsu.ac.jp/about/disclosure/self-inspection)

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教学委員会
	委員構成等	(1) 本学専任教員のうち学長が委嘱した委員 学科長、臨学センター長、専攻（科）主任、専攻（科）教員 (2) 事務職員のうち学長が委嘱した委員 事務部長、事務職員
	改善の仕組みの実際	教学委員会で次年度のシラバスを検討し、承認を得た後、11月末頃に科目担当者へシラバス作成の依頼を行う。 12月～1月中旬までの間に、科目担当者は、作成手引きを基にシラバスを作成していく。 1月中旬に提出されたシラバスを教学委員会で第三者チェックを行っている。 「授業内容」「授業計画」「評価方法」等の内容の確認を行い、併せて国家試験の出題基準と照らして問題等がないか確認を行っている。この時、修正箇所等があれば担当者に差し戻し、修正箇所がなれば完成となる。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>自己点検評価については、例年、以下の手続きにて、実施している。</p> <p>毎年5月末には、自己点検・評価委員長から指示を受けた各専攻、専攻科、研究科、各委員会が日本高等教育評価機構の評価基準に則り、各基準の「自己点検・評価報告書」について6月末を目途にまとめ、この報告書は自己点検・評価委員会を経て運営会議に提出される。運営会議は「自己点検・評価報告書」を検証し、改善・向上すべき方策を取りまとめて、各専攻、専攻科、研究科、各委員会に改善を指示する。さらに各専攻、専攻科、研究科、各委員会では、改善指示された事項について毎年11月頃に当該年度の現時点での改善・向上方策実績について確認し、次年度の「事業計画書」や「OHSU 中期展望および期間中の取り組み」に反映される。</p> <p>また、年度終了後、年度当初には年間を通じた新たな課題や継続課題について確認し、「事業報告書」や「OHSU 中期展望および期間中の取り組み」の単年度取り組み結果報告、自己点検評価報告書に反映させている。</p> <p>また、ディプロマ・ポリシー達成のための直接的課題やディプロマ・ポリシーを達成させるためのカリキュラム・ポリシーおよびアドミッション・ポリシーに関する課題と期間中の取り組み項目との対応を明確に示し、教育の質を保証するためアセスメントプランを策定している。これは、ディプロマ・ポリシーをもとに学修成果の到達度をはかる指標であり、この結果を自己点検評価して検証し、教育活動の改善に活用する。この結果</p>
--

や検証も含めた教育研究活動と運営全体について、全学的な自己点検・評価報告書を作成、検証、改善し、本学における継続的な質の保証を担保している。加えて、卒業生に学生生活、教育内容等に関するアンケート調査を行なっている。さらに、直近の卒業生の就職先の上長に対しても教育内容等に関するアンケート調査を行っており、結果について分析の上、PDCA サイクルの実践に繋げている。